意見書案第８号

台湾の国連気候変動枠組条約（ＵＮＦＣＣＣ）への参加を積極的に支援するよう求める意見書

札幌市議会では、これまで日台友好議員連盟の活動を通じて、台湾との友好を促進し、親善を図ってきている。

台湾は国際社会の重要な一員であり、気候変動などの課題解決に対しても、国際組織の総会に会員となって参加することが望まれる。

現在、大気中の温室効果ガスの濃度は上昇し続け、世界の平均気温は史上最高を記録しており、待ったなしの普遍的な対策が求められているが、台湾はグリーンエネルギー技術と科学技術力を有しており、世界が気候変動の脅威とサプライチェーンの再構築に直面している現在において、安全で信頼できるパートナーとなることが期待できる。

２０２２（令和４）年の台湾のエネルギー効率は、世界第８位であり、再生可能エネルギーによる発電の比率は約１０％を占めている。台湾は、これまで培ってきたグリーン技術の優位性と強みを生かし、環境、医療、公衆衛生、グリーンエネルギーなどの分野で世界に貢献したいと考えていることから、台湾の経験が気候変動解決の一助となるよう、ＵＮＦＣＣＣへの平等な参加機会を与え、気候変動に対処する国際協力のメカニズムに加えることが重要である。

よって、国会及び政府においては、早急に台湾のＵＮＦＣＣＣ参加を積極的に支援するよう強く要望する。

以上、地方自治法第９９条の規定により、意見書を提出する。

２０２５（令和７）年６月１０日

札幌市議会

（提出先）衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、
外務大臣、財務大臣、経済産業大臣、環境大臣
（提出者）自由民主党、公明党、坂元・荒井及び日本維新の会所属議員全員
並びに未来さっぽろ成田祐樹議員及び大地さっぽろ脇元繁之議員